

神奈川県立保土ヶ谷支援学校学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和5年度 第3回 学校運営協議会		
開催日時	令和5年12月13日(水)		
開催場所	舞岡分教室(舞岡高等学校内)		
出席者	令和5年度保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会委員 10名(本校校長を含む) 令和5年度保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会事務局教職員 4名		
次回開催予定日	令和6年2月29日(木)		
問合せ先	神奈川県立保土ヶ谷支援学校 副校長 川島 結子 電話 045-714-0126 Fax 045-742-9716		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過			
<p>1 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> 舞岡分教室の取り組み見学、分教室の教育内容の確認や意見交換を行い、今年度の重点課題である就労支援について特に分教室について考えていきたい。 <p>2 学校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザが流行し始めており、高等部で1学級の閉鎖がある。感染対策を行っている。 前回水泳指導についてお話をした以降も、行事ができるようになり、小学部は箱根、中学部は名古屋に修学旅行に行った。名古屋に同行し、天候良く元気に活動できた。さまざまな文化に触れて、子ども達は楽しめた。 小中学部運動会、高等部分教室のスポーツフェスティバルも盛り上がった。分教室の生徒達で印象に残ったのは、失敗しても「頑張ろうね」の言葉かけをしたり、支えあったりする姿を見て、行事の中で成長していくのだと感じた。指導・行事を大切にして、教育活動を進めていきたい。 分教室の見学、協議の中で忌憚のないご意見をお願いしたい。 <p>3 出席者及び会成立の確認(事務局：副校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席者全員参加により会成立。 <p>4 資料確認、流れ説明(事務局：副校長)</p> <p>5 議題「分教室の取り組み」</p> <p>①分教室の概要説明(副校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立特別支援学校 分教室の設置状況を紹介 			

②舞岡分教室紹介（舞岡分教室リーダー）

- ・県内最初の分教室
- ・昨年度の耐震化工事により、施設が使いやすくなった。トイレもウォシュレットになっている。
- ・昨年度、全県として設置校から1教室もらうことができ、相談室として使用している。
- ・2年前から、職業の班をもの作り中心からサービス系を取り入れている。

③横浜平沼分教室（横浜平沼分教室リーダー）

- ・日課表、今年度から職業の授業を週1日から週1日半に変更した。
- ・サービス班は接客を学ぶ目的で例年カフェを運営している。今年度はコロナの影響で横浜平沼高校の文化祭でポッチャ体験会を運営することに取り組んだ。1月以降はカフェの運営を行う。

6 授業見学

1年 「情報」 / 2年 「国数」 / 3年 「国数」 の授業を見学

7 協議

重点課題 ～分教室における「就労支援、進路支援」の課題について～

○ 資料について説明（副校長）

（A委員）

- ・定着率の意味はということか？離職の理由が対人関係。在学中も同世代のコミュニケーションの難しさがあるとのこと、そこにつながる難しさがあると思った。

（副校長）

- ・学校としてアフターフォローを3年間実施していることから、その期間での離職率の意味である。

（A委員）

- ・自分からアルバイトなど進路先を探すケースがあったと聞き、企業就労だけでなく選択肢があることが分かった。本人が、何が得意で何をしたいのかを考えた結果で、学校がそれをサポートすることは大変だと思うが向き合った結果だと思った。

（会長）

- ・同世代のコミュニケーションの難しさ、進路先の多様化への取り組みについて、分教室からお願いしたい。

（舞岡分教室リーダー）

- ・実習を通して、本人の適性を考えて取り組む。就労できると思った生徒が福祉に進んだり、厳しいと思われたが頑張って就労できた生徒などさまざま。進路担当と相談しながら進めている。

(A委員)

- ・働くことを先延ばしにすることについて、当事者の保護者としては治安の問題など感じているところもあるが、考えていきたいことである。

(B委員)

- ・舞岡の定着率を見て、人間関係の難しさを感じる。

(会長)

- ・人間関係・コミュニケーションについて分教室でどのように取り組んでいるか？

(横浜平沼分教室リーダー)

- ・会話だけでなく、通うこと・周りの人とうまくやっていく力が必要と考えている。

(C委員)

- ・授業でパソコン入力の様子を見た。一つの力として大切。うまくできると自信につながると感じる。アルバイトなどに取り組もうと思える力として効果的になると良い。

(会長)

- ・1人1台端末になると聞いている。ICT活用、自信につながるものとして、パソコンの活用の実態はどうか？

(舞岡分教室リーダー)

- ・来年度から1人1台端末になるので活用したい。字を書くのが苦手な生徒も、入力することで取り組めると良い。2・3年生では、PowerPointを作成し発表することもしている。今後も広げていきたい。

(D委員)

- ・自立と社会参加について説明を聞き、なるほどと思った。舞岡分教室は穏やかな雰囲気、挨拶で自己肯定感を大切に育ててきたことを肌で感じた。人間関係・コミュニケーションを考えたとき、ここ数年コロナで奪われていることから、所属でもグループワークなどを取り入れ、コミュニケーションを大切にしていきたいと考えている。個別最適な学びをどこまでできるのかが、これから大切になると思った。先生と生徒と一緒にやっていく個別的なかわりが必要になっていく。保護者に対しても同様なかわりが必要なのだと思う。保護者も一緒になってやっていくことが、子どものますますの自立と社会参加につながると感じた。

(会長)

- ・保護者と一緒というところでは、分教室はどう取り組んでいるのか？

(横浜平沼分教室リーダー)

- ・生徒には校外学習として進路先見学を行い、保護者対象にも進路先見学会を本校とは別に両分教室合同で行っている。分教室の保護者に見てもらいたい進路先として両分教室の進路担当が計画し、見学を実施している。進路面談を行い、個別でも進路先について話をしている。

(E委員)

- ・インクルーシブ教育実践推進校が5年前に始まった。それにより、特別支援学校（特に分教室）にも影響は出ていると思う。インクル校は高校の教育課程のため、特別支援学校のように実習を組むことが難しい。卒業後の進路先としても働くことだけでなく、進学という選択肢もあり、卒業後すぐの就労に繋がりにくい。双方を考えて、神奈川県での就労

率が下がってきてしまうのだと思われる。学校としてではなく、県レベルでどう考えるのかも必要だと思う。

また、コロナの弊害はいろいろな面で数年間は続くのではないか。

(舞岡分教室リーダー)

・インクル、クリエイティブ校など、様々な学びの場ができて、そちらへ進学している人が多いのだろう。

(F委員)

・ほめて伸ばす、多様性を受け入れる教育が進み、自己肯定感が高くなるはずだが…
コロナ、時代・社会の背景など感じるがあれば教えてほしい。

(会長)

・知識・技能・態度を身につける教育と言われているが、それを発揮して認められる機会はどれくらいあるのか？との話を聞いたことがある。家庭・地域で力を発揮して認められたり、褒められる機会が限られているのではないか？自分ば何なのか？を感じる機会が少ないのはと。

生徒たちは入学までに苦戦したことも多いと思うが、分教室ではどうなのか。社会との関わりなどの力は大きく変わってきているということもあるか？

(F委員)

・放課後デイサービスの利用が広がったことも一つあると思う。自信につながる自己肯定感は大切。よい仕組みができると良いと思う。身につけるだけでなく、発揮できる場所が大切。失敗する経験もないのかもしれない。一度失敗するとくじけることもある。ヒントをいただけた。

(G委員)

・就労しても仕事として合う・合わないがあるので、離職することはある。次でうまくいくこともある。

就労しても自信がつけば、辞めずに定着できる。慣れるまでに何か月かかかるが、仲間がいてコミュニケーションが取れれば定着しやすいと思う。自信を持てるようにすること、多くの実習と経てもらえると良いのでは。就労が目的だとすると、いろいろなところで実習を経験することで選択肢になる。実習先の開拓をしているのか？

(会長)

・就労に向けた力を育むための実習、その機会、活動について、何か悩みや取り組みについて、分教室からお話できるか？

(横浜平沼分教室リーダー)

・実習を増やすことについて、機会があれば是非と思うが、実習に出すまでに身につかせたい力をつけるために校内実習をしている。教員付き添いのグループ実習なども行う。

企業には、まずはグループ実習をさせてほしいとお願いしている。企業の方と一緒に働く経験は貴重だが、まずはグループで行くことで教員と一緒に考える経験を経て、次に一人で実習に出るとい、順を追って取り組んでいる。

企業実習については、実習期間に限らず先方との調整の上で実習を行っている。さまざまな企業にご協力を得たいと思っている。

(副会長)

- ・ E 委員からのお話、今後の変化について県全体で考える必要があるとのこと、大賛成。就職率は、県で 35%の時があったが、今は 25%。東京は 45%、千葉・埼玉は 35%をキープ。
- また、実習の受け入れが減っている。学校から実習に出すのが減っていると感じている。企業からすると「経験させることが大事」だと思っている。
- 今年度は、就労支援について取り組んできた。夏のブロック別懇談会、分教室生徒に対して就労講話を行い、今日は本校生徒向け、25 日には保護者に対して講話をする。就労についての不安を安心にしたい。特性に合ったことが仕事になると良いので、得意なこと好きなこと長続きすることが何か、保護者には子どものことを見てもらいたい。インクル校がある中での分教室の役割を考えていく必要がある。

(会長)

- ・ 分教室の生徒の実態は変わってきている。教育活動が変わっていく必要があることを、この協議で委員の皆さんと確認した。全体的、継続的に考えていく必要があり、引続き学校運営協議会としても協議を進めていきたい。就労・進路支援と共に、分教室についても検討を進めていきたい。
- 以上で、協議については終了する。

(G委員)

- ・ 自社では、約 3 割が障害のある方。一人は 30 年以上勤務で県知事表彰をもらった。その人が就労に向くかどうかは普段の様子を見ながら実習に出してほしい。

(会長)

- ・ その通り。仲間づくりの取り組みも、またお話を聞きたい。

8 事務連絡

- ・ 次回は 2 月 29 日 (木) 午前 本校にて
- ・ 特別支援教育課からの「令和 5 年度コミュニティ・スクール説明会への参加について」文書説明
- ・ 公開研修会「不登校児童・生徒の対応について」の案内

9 副会長挨拶

- ・ 本校の運営協議会は年 4 回行っている。今日の授業はとても良かった。内容が良かった。実際に見せてもらえることを続けてほしい。

10 会長挨拶

- ・ 副会長と同意見。次回もよろしく申し上げます。

以上